



# Web Fairy Paradise

2010/10/25正規版

**第28号**

## 今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第27回WFPフェアリー作品展
- ・ 推理将棋38回出題
- ・ OFM 第164回出題
- ・ (再出題) 詰四回F作品展3番
- ・ Fairy of the Forest #25

## 結果発表

- ・ 第26回WFPフェアリー作品展
- ・ OFM 第163回出題
- ・ 推理将棋第37回出題
- ・ JIGSAW BOX #5
- ・ 第9回詰四会フェアリー作品展

## 読み物

- ・ 妖精賞の系譜(15)
- ・
- ・



**2010/10**

## はじめに

10月に入りやっと秋らしい気候になってきました。解図をするにはもってこいの季節と言えます。プロ野球もいよいよ大詰めでこれを書いている時点では、日本シリーズの対戦は、中日or巨人対ロッテという組み合わせとなります。もしかしたら各リーグ3位チーム同士の日本シリーズという対戦の可能性もありますが、何にしているのか分からない気持ちになりますね。私の応援している某チームは何年連続か分からないほどBクラスに低迷しておりますが、前田健太という見ていて気持ちよいピッチャーがいるということだけに救われているようなそんなシーズンでした。ストーブリーグの話題としてはフリーエージェントになった黒田投手が広島に帰ってきてくれるのか・・・その一点が注目の的です。男黒田はきっと帰って来ると信じております。まあ、ピッチャーよくなくても打てないからなあ・・・。

話は変わりますが、詰パラ9月号を読んでいて気になった文章があります。推理将棋のコーナーである解答者のコメントです。

「推理将棋のおかげで、フェアリーの熱が冷めた」

この文章を読んでちょっと考え込んでしまいました。推理将棋もばか（協力）系作品ですので私はフェアリーの一部と思っています。どちらも面白いと思うのだが、違うのかなあ？

最近、Web上で開催されているフェアリー詰将棋の作品展での解答者の減少は著しい。ここ数年ずーっと同じような状況が継続しています。こうなるとWFP発行が何の寄与にもなっていない感さえ最近しています。

何か新しい試みが必要なのでしょうか。

## 【募集】

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第27号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

### 協力いただいている方々のHPアドレス

\* ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### イラスト・素材提供：幻想素材サイトFirst Moon

<http://www.first-moon.com/>

\* 表紙のイラストを使用させて頂いております。

# 第 27 回 WFP 作品展 担当 紅月花煉

## [ 作品投稿要項 ]

- 1) 作品投稿は随時受け付けています
- 2) ルールは不問です。フェアリー系ルールならばかしこでも可です( 安南詰 etc)
- 3) FM 等で検討済みの場合はその旨を付記して下さい
- 4) FM 等で検討出来ない場合は検討の手伝いをします

## [ 解答要項 ]

解答締切：平成22年11月15日

本作品展は、正式発表とし TOP IXの対象となります。また解答のコメントは結果発表にて掲載いたしますのでご了承下さい

作品投稿及び解答は

webfairyparadise\_you@yahoo.co.jp

をお願いします

余詰・近況報告は

<http://circe-pro.cocolog-nifty.com/blog/>

で行っています。確認の上、解答下さい

## ルール説明

### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方玉を詰ます

### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方玉を詰ます

### 【スタイルメイト】

合法的な着手がない状態にする

### 【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

### 【キルケ】

1. 駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に駒が戻される。戻せないときは持駒になる。但し、玉には適応されない
2. 戻す位置が2つある場合(5筋の金銀桂香)戻す位置の選択は取った側が行う
3. 成駒は生駒として復活する。と金が復活して二歩になる場合は、復活できずに持駒になる

### 【強欲】

攻方、受方とも、駒取りの手があるときは、駒を取らない手を禁手とする。駒取りの手がなければ、駒を取らない手は有効

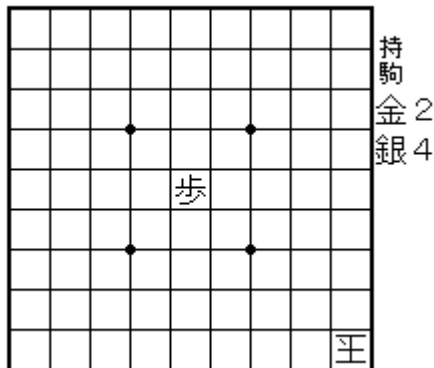
### 【前置き】

好作が揃いました。数少ないけど楽しめるとおもいますのでどうぞ。第壱番は易しい〇〇、第貳番はツインの戯作だそうです。

## 【妖精】

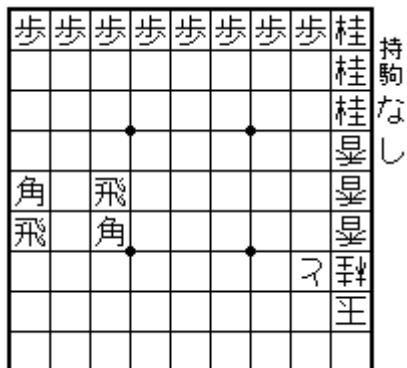
【第壱番】 たくぼん氏作

強欲協力詰 19手



【第参番】 神無太郎氏作

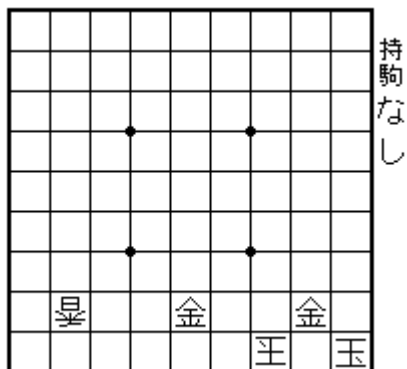
安南協力自玉スタイルメイト 16手



b) 27 と→28と

【第参番】 神無七郎氏作

キルケ協力自玉詰 44手



開催日 : 2010 年 10 月 10 日 (日)  
 解答締切 : 2010 年 11 月 6 日 (土)  
 解答発表 : 2010 年 11 月 7 日 (日)

神無太郎 氏作

Messigny協力自玉詰 24手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						金			一
						王			二
								王	三
						王			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【ルール説明】

協力自玉詰 (=ばか自殺詰)

先後協力して最短手数で、攻方の王を詰める。

Messigny

盤上に置かれている双方の同種の駒(玉を含む。成駒は別種の駒として区別する)は1手でその位置を交換することができる。交換する時に駒を裏返すことは出来ない。

本作の解答を管理人宛

(janacek789@ybb.ne.jp) に E-mail でお送り下さい。

解答締切 : 2010 年 11 月 6 日 (土)

解答発表 : 2010 年 11 月 7 日 (日)

【コメント】

GEN HIRANO Toshi Ichiyanagi (一柳慧) - Piano Media  
<http://www.youtube.com/watch?v=xV2DPzfV-As>

上に紹介したのはYouTubeで見つけた、一柳慧「ピアノ・メディア」の動画。演奏は平野弦です。私がこの曲を聴いたのは1度だけ。テレビの音楽番組(題名のない音楽会?)でこれを聴き、強烈な印象を持ったことを覚えていません。当時の私はミニマル・ミュージックを聴いたことがなく、その言葉さえ知らなかったのですが、どうやらこれは日本へミニマル・ミュージックを「輸入」した最初の作品だったようです。その後この曲を聴く機会もなく、CDも見つけることができなかつたのですが、世の中便利になったものですね。スティーブ・ライヒやテリー・ライリーらの曲を聴いてこの種の音楽様式に慣れた後では、初めて聴いたときほどの驚きはなかつたのですが、今聴いてもそこそこ楽しめました。

実は私は今までYouTubeは意図的に避けてきました。テレビなどではまず放送されないような珍しい曲や、曲自体はCDで聴けても「実演」を目にする機会が減多にない曲の演奏が、YouTubeを探すと結構見つかるからです。しかも1曲見つけると「関連動画」として、こちらの興味をそそるような動画も紹介されます。そうやって際限のなく動画漁りを続け、気付かないうちにかなりの時間を消費していた…なんてことが容易に起こります。これがYouTubeを極力避けてきた理由です。

ただ、せっかくそこに豊饒な文化的資源があるのに、それを無視するのは勿体ないことです。特に、商業ベースに乗りにくいニッチでディープな領域では、多数派を想定したメディアではなく、少数派のために用意されたメディアからしか欲しい物は手に入りません。私は詰将棋に関して「将棋雑誌」から「詰将棋専門誌」へ、「詰将棋専門誌」から「フェアリー専門誌」へとどんどん狭くて深いメディアに活動の軸足を移してきましたが、音楽に関してもそろそろネット上のコンテンツの視聴を解禁すべき

時期に来ているようです。

さて、今回の出題はまだ「輸入」されて間もない Messigny ルールの作品、作者は神無太郎氏です。氏は WFP でも Messigny 作品を数多く発表されているので、それらの作品が解図の参考になるでしょう。WFP 発行時期と合わせるため解答募集期間をいつもより一週長い4週間としています。極端に難解な作ではないと思います。

(担当：神無七郎)

## Fairy of the Forest#25

- 2010年09月18日：課題発表：（協力詰）初形面積「 $4 \times 5$ 」
- 2010年10月18日：投稿締切
- 2010年10月20日：出題
- 2010年11月15日：解答締切
- 2010年11月18日：結果発表

### ■ 課題発表

☆七郎さんから「森茂作品から……」という提案も来ているのですが、今回までは従来通り「九州G作品展（普通詰）と同課題」としておきます。

七郎案は次回以降の宿題ということで。したがって、今回の課題は「初形面積 $4 \times 5$ 」です。

雲海一ところで次の課題の「 $4 \times 5$ 」がわからないのですが、初形がピッタリ「 $4 \times 5$ 」で、以内も以上もダメ、でよろしいですか？

着手も「 $4 \times 5$ 」以内ということはないですよ？

☆雲海さんのご理解でOKです。いちおう補足しておきますと、「4筋 $\times$ 5段」使用であれば、どの位置でも結構です。

多数のご投稿をお待ちしています。

### ■ 出題

当初の締切日である15日までに集まった作品は、何とゼロ。「またひと月延ばすことになるのかなあ」と思いつつ、とりあえずたくぼんさんのブログで18日までに延期の旨をコメントしたところ、常連の方から4作が集まりました。皆さん流石です。どうもありがとうございます。

さて、何とか集まったものの、4作では少ないし作品も短篇ばかりなので、再延期も考えたのですが、今回はこのまま出題することにします。

このところ投稿締切をひと月延ばすことが続いたので、この辺でスケジュールを正常化しようと思ったからです。

ボリューム不足で物足りないかも知れませんが、解答者増を（ひそかに）期待しています。

なお、「5×4」の作品も混じっていますが、その辺は大目に見てください。

締切は 11 月 15 日（月）とします。25-04 は「後手持駒なし」です。ご注意ください。

（解答先）

→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

■ 25-01 雲海 協力詰 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1


一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九

持駒 角

■ 25-02 たくぼん 協力詰 9 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1


一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九

持駒 なし

■ 25-03 たくぼん 協力詰 9 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1


一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九

持駒 なし

■ 25-04 神無七郎 協力詰 15 手（後手持駒なし）

9 8 7 6 5 4 3 2 1


一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九

持駒 桂歩

## 推理将棋第38回出題

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第38回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの? - 推理将棋入門

([http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post\\_53f2.html](http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html)) をごらんください。

解答、感想はメールで2010年10月20日までにTETSUまで

([omochabako@nifty.com](mailto:omochabako@nifty.com)) メール の 題名は「推理将棋第38回解答」でお願いします。

### 推理将棋第38回出題 担当 タラパパ

2年ぶりに登場する夏休みさん作の中級13手は、盤面をキャンパスにして大きく筆を走らせてください。10手目42角に直感を働かせれば秒殺も可。

1桁手数はなし。しかも上級11手は、当コーナーでも屈指の難局。

不成5回が全部先手なら、最終手は12香不成しかないですよね?

それが分かっているても簡単ではないので、追加ヒントは早めに出しますね。

#### 38-1 初級 タラパパ作 天邪鬼な夫 10手

手なりにさっと片付けてください(笑)

#### 38-2 中級 夏休みさん作 大空のキャンパス 13手

10手目42角に直感を働かせ、盤面を目一杯に使ってください。

#### 38-3 上級 DD++さん作 不成5回で12まで 11手

12の手で詰まそうとする時に邪魔になる駒を処分する必要があります……。

追加ヒント (10月10日 タラパパ)  
中級に更に余詰指摘があり、作者に連絡メールを入れたところです。

恒例のヒント。少し早めにとお約束したので、修正を待たずに作意に沿ってヒントを入れさせていただきます。夏休みさん、ごめんなさい。

初級: 先手も後手も使った駒は、歩ともう1種類だけ(歩+ $\alpha$ 、歩+ $\beta$ )。

中級: 後手玉は居玉のまま詰まされました。先手も後手も取った駒は歩が一枚。

上級: 先手角不成4回と、後手の不成が1回です。

#### 38-1 初級 タラパパ作 天邪鬼な夫 10手

「あなたたった10手で詰まされたんですって?」

「最初からの4手を1・2・3・4筋の順に指されてね」

「わかった!あなた最後からの4手を1・2・3・4筋の順に指したでしょ?」

「ど、ど、どうして分かるのさ」

「その天邪鬼な性格、直したほうがいいわよ」

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 後手は最初からの4手を1・2・3・4筋の順に指した
- ・ 先手は最後からの4手を1・2・3・4筋の順に指した

※順番に「?、1、4、2、3、3、2、4、1、?」の各筋の着手ということ。

#### 38-2 中級 夏休みさん作 大空のキャンパス 13手

「この二人の対局は自由奔放だね。まるで大空のキャンパスに絵を描いているようだ」

「後手は8手目までマネ将棋だったのに、10手

目は42角と変化したね」

「先手の歩の手と駒を取る手は一度だけだったけど、13手で詰ましたね」

「先手の歩の手は一度、取った駒も歩が一枚だけだったけど、13手で詰ましたね」 (10月7日変更)

「そういえば、成る手がなかったね」 (10月11日追加)

二人は盤上にどんな絵を描いたのでしょうか。

(条件)

- ・ 13手で詰んだ
- ・ 8手目までマネ将棋だったが、10手目の42角でマネから外れた
- ・ 先手の「歩の手と駒を取る手」は一度だけだった
- ・ 先手の歩の手は一度だけだった (10月7日変更)
- ・ 先手の取った駒は歩が1枚だけだった (10月7日変更)
- ・ 成る手はなかった (10月11日追加)

※マネ将棋・・・55を中心とした点対称の同じ動作(動かす・打つ)の着手

たとえば、「76歩、34歩、55角、同角」もマネ将棋です。棋譜表記も違い、一方だけ駒を取りますが、点対象の位置に、同じ場所から同種の駒を動かしているからです。

※10月7日訂正(タラパパ)

DD++さんから余詰の指摘がありました。作者に連絡して、修正案を頂きましたので、上記の通り修正します。作意手順は変わりませんので、既に解答された方は再解答の必要はありません。

※10月11日訂正(タラパパ)

7日の修正案についても渡辺さんから余詰の指摘がありました。作者に連絡して、修正案を頂きましたので、上記の通り修正します。作意手順は変わりませんので、既に解答された方は再解答の必要はありません。二度にわたる余詰、作者と共にお詫び申し上げます。

---

### 38-3 上級 DD++さん作

不成5回で12まで

11手

「隣の将棋、たった11手で詰んだのに5回も不成があったとは珍しいね」

「珍しいといえば、この短手数でトドメが12つというのも妙な場所だよね」

(条件)

- ・ 11手で詰んだ
- ・ 不成が5回
- ・ トドメは12の手



【解答者】 2 名

全題正解者：神無七郎氏 隅の老人 B 氏

【前置き】

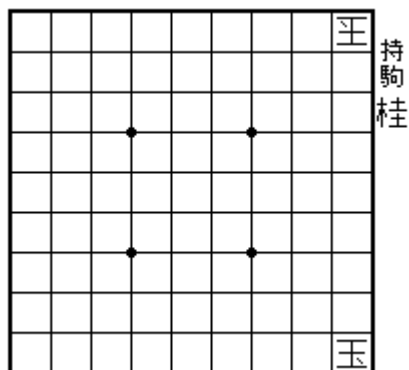
遂に解答者が 2 名になってしまいました。これも担当の人徳のなさですね。そろそろ交代の時期か・・・まあ、まだまだこんな感じの原稿作成が続きそうですが勘弁して下さい

\* 解答送付したつもりでいましたが、そうでなかったみたい。勝手に私の感想も付けておきます (たくぼん)

【妖精】

【第壱番】 たくぼん氏作

対面キルケばか自殺詰 10 手



【作意】

23 桂 22 香 同桂成 21 香 18 香 15 桂  
21 圭 同玉 /29 桂 27 香 同桂生 迄 10 手

【作者コメント】

非対称にはあまり関係ありません。9 筋でも成立します

【担当者コメント】

神無七郎氏より  
結構苦勞して、桂の頭に逃げられない対面独特の詰上りを発見。解けた後に強い既視感を生じたので調べてみたら、左右逆で前例がありました。Online Fairy Mate 第 39 号の神無三郎氏作です  
という指摘がありました。データベースと云うのを使用してないので気付かなかったです  
という事で詳しくは七郎氏の解説を！

【短評】

神無七郎氏：

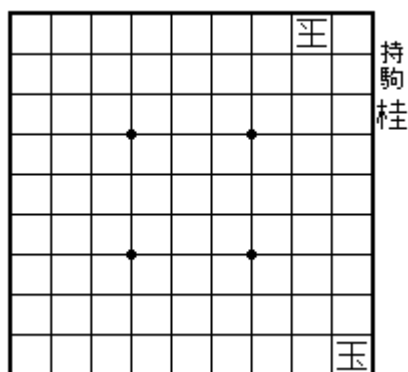
余談ですが、当時私はこれが解けなくて f m に答えを教えて貰ったみたいです。やっぱり難しい詰上りだったんですね

隅の老人 B 氏：

桂には香、香には桂？、桂での単騎詰、上手いな

【第貳番】 たくぼん氏作

対面キルケばか自殺詰 12 手



【作意】

13 桂 12 飛 同桂成 /82 飛 11 香 同圭  
22 玉 29 香 11 玉 22 香成 21 飛 12 杏  
同飛 迄 12 手

【作者コメント】

キルケらしさがやや足りないかも

【担当者コメント】

第壱番とは玉が一路だけずれている形ですが手順は全く違います。まずは飛対で飛車を復活させてから香を入手します。次の桂を復活させないための限定打がキルケらしい唯一の手で最後は再度の飛対から飛車の王手で詰め上がりませす。一路の差で大きく手順が変わるのが詰将棋の世界の奥深さでしょう

【短評】

神無七郎氏：

第壱番で 23 桂 22 飛 同桂成 /88 飛 21 飛  
12 圭 同飛 /29 桂 の紛れ (桂が復活するため詰んでいない) を読んでいたため、割と

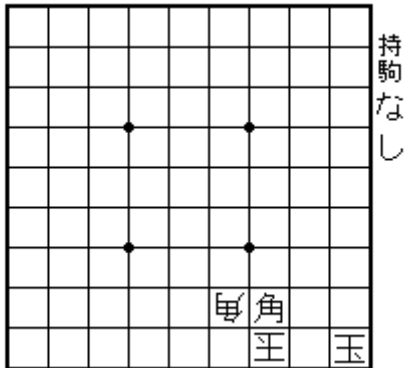
早く解けました。詰上りや手順だけ見るとあまりキルケっぽくないですが、復活位置封鎖の限定打の 29 香で何とか「キルケ」の顔は立ってますね

隅の老人 B 氏：

一路のズレで、今度は飛が大活躍。「創作の妙技、ここにあり」、かな

【第参番】 神無太郎氏作

Messigny 協力自玉詰 12手



【作意】

48 角 /38 角 49 玉 38 角 /48 角 59 玉  
48 角 /38 角 19 玉 /59 王 37 角 28 飛  
19 王 /59 玉 49 玉 38 角 /37 角 同飛成  
迄 12 手

【担当者コメント】

2 手目でいきなり交換したいのですが 39 の地点では後に 37 角の形で王手出来ないので一回敢えて遠ざけておくのが本作のポイントと言えらると思います。本作のように隣接した角の近くに玉を置くと作りやすいかもしれませぬ

【短評】

神無七郎氏：

すぐに玉交換をせず、いったん遠ざけるのが上手い伏線。手数を掛けたくない心理が働くだけに一層効果的です。大駒の利きの両側に双方の玉を設置し、合駒の後即座に玉を入れ替るのは、Messigny の必修手筋？

隅の老人 B 氏：

この配置で自殺？、何処かで合駒？、あとは根気が大切でした

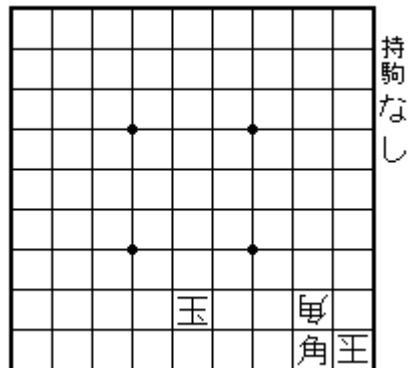
たくぼん：

残り 3 手くらいになっても詰上りが見えな

い。本当にMessignyはややこしい

【第四番】 神無太郎氏作

Messigny 協力自玉詰 14手



【作意】

28 角 /29 角 18 玉 29 角 /28 角  
58 玉 /18 王 47 角 18 玉 /58 王 36 角  
27 飛 18 王 /58 玉 49 玉 58 角  
39 玉 28 角 /58 角 同飛成 迄 14 手

【担当者コメント】

細かく交換して合駒を出せるようにするのを目標にしていけば結構素直に解けます。本作品のように細かく交換する展開がこのルール本来も持ち味何だろうと思える作品です。

【短評】

神無七郎氏：

頻繁な交換が出現しますが、前局の後では二番煎じっぽく見えてしまいます。第参番単独出題の方が良かったかも

隅の老人 B 氏：

これも飛合ですね。少し？の違いで面白い手順が飛び出す、感心しますね

たくぼん：

目まぐるしく交換される玉。本当に流れが読み難い。

【課題作作品展】

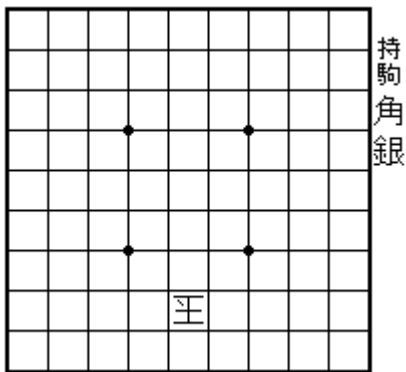
さて、課題作品展に関しては作者よりしっかりした原稿が来たのでそれを転載しておきます。個人的に好きなキルケルールですが七郎氏と同じく第参番には感心しました。これを機にキルケというルールが更に発展してくれる事を願います

【作者コメント】

WFP フェアリー作品展 8月号を見た瞬間、びっくりするとともに「やられた！」と思いました。なぜなら、私も以前から非対称性の詰将棋について構想を練っていた（ほったらかしていたとも言える）のです。結局できているのは初挑戦であったキルケの例題級3題のみという悲惨なものでしたが…本当は自玉詰、受先形式などどんどん展開していけばいいのですが、時間的にも才能的にもきついものがある・・・ということで、ここから先は皆様にお願ひしようと思ひます。拙作からインスピレーションを得られたという方がいらっしやれば、これほどの喜びはありません。

※3つともルールは「キルケ協力詰」です。  
 ※「5筋を軸として、左右を逆にする」ことを、単に「反対にする」と呼ぶことにします。

1、非対称性により左右対称の手順で片方しか成立しない

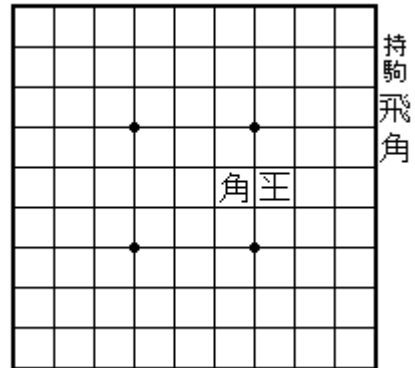


【作意】

4 9 銀、5 7 玉、9 3 角、6 7 玉、6 6 角成

タイトルの通り、この例では、作意順を反対にした順では詰みません。馬が復活するのは、1 1 ~ 9 9 のラインだからです。最終手でそのラインから馬で王手をしなければ、その馬は取られてしまう、という仕組みですね（自作ではこれしか使っていません…）。ちなみに「絶対同一作ある」と思ひx4ccにかけてみましたが見つからない。信じられない（笑）

2、左右対称な2つの局面で詰手順が違う

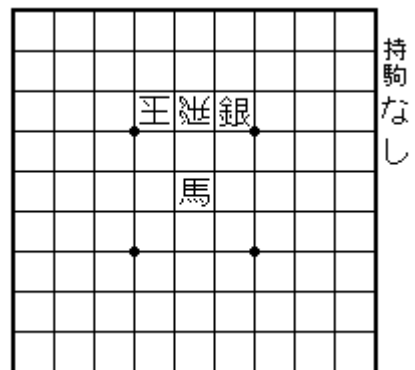


B) 左右反転

- (A) 1 5 飛、2 4 玉、3 3 角 迄 3 手
- (B) 9 5 飛、8 6 玉、7 7 角 迄 3 手

普通なら、ある局面を左右に反対にしようが、詰手順そのまま反対にすればよいことなのですが、キルケでの特定の局面、今回の(A)、(B)のような場合、違う詰手順になります。この場合は偶然、5 5 を中心として点対称になって、ちょっとおもしろいかも。

3、手順中、左右対称である2つの局面が登場する



【作意】

5 4 銀生、5 2 玉、6 3 玉、4 3 玉、3 3 馬 迄 5 手

ここでもですが、普通の詰将棋（フェアリーも含む）では手順中左右対称である2つの局面（例で言うと例題の初形と4手目）はでてきません。なぜなら普通の詰将棋では左右対称の局

面は（その後の手順展開としては）同一であり、左右対称にするまでにかかる手数が無駄であるからです。（間違っていたらごめんなさい）逆にいえば、左右対称でも手順が変わることのある場合は、左右対称である2つの局面がでてくる可能性があるのですね。

わざわざ左右対称形にもっていかないと詰まない、というのもおもしろい話かもしれませんね。さて、ほとんど文章になってしまいました。投稿とはほど遠い原稿になってしまい申し訳ないです。文章はどうか焼くなり煮るなり、好きにつかっていたいただければと思います。

【短評】

神無七郎氏

- ①この図に同一作がないのは不思議。それだけ例題級の作品の発表場所がなかった、ということでしょうか
- ②a)はすぐ解けたのにb)は結構盲点でした。左右反転が上下反転に変換される面白いツインだと思います。
- ③4手掛けて左右を反転させる課題に忠実な作。途中で縦の「1」になり、最後に横の「一」になるのも計算のうちでしょうか。誤図（55馬→56馬）も縦の1になるというオマケが付いたのは運命の悪戯？

隅の老人B氏

- ①5手でも結構難しい。これで普通の詰棋が解けなくなるな
  - ②図面を左右反転して、さて、でした
  - ③解けて、思わず、「上手い！」です。超短編の傑作かな
- たくぼん
- ①まだ発表されていなかったのが不思議な感じがします。
  - ②簡単ですが、キルケらしくていいですね。左は飛が主役かと思いましたが・・・
  - ③これは面白い。キルケあぶり出しの傑作か

【総評】

神無七郎氏：

今回の作品展は複合ルールとまだ不慣れなルールで少し心配しましたが、思ったよりは解きやすく助かりました。この中では第参番が最も好きです。また、シン氏の課題作は易しいながらも「左右非対称」を上手くクローズアップした。作品群だったと思います。特に第貳番は収獲

Onsite Fairy Mate 第163回出題解答

開催日 : 2010年9月12日(日)  
 解答発表 : 2010年10月3日(日)

神無七郎 作

背面協力自玉スタイルメイト 16手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
					王	角			五
									六
					歩		歩		七
									八
									九

持駒 銀2桂4

【ルール説明】

協力自玉スタイルメイト (=ばか自殺スタイルメイト)

先後協力して最短手数で、攻方をスタイルメイトにする。

スタイルメイト

王手は掛かっていないが、合法手のない状態。(本作は単玉のため、単に合法手のない状態)

背面

敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入り替わる

【手順】

44 角 23 玉 22 桂 15 玉 14 桂 27 玉  
 36 銀 同玉 35 角 54 玉 43 銀 同玉  
 42 桂 35 玉 34 桂 47 玉 まで 16 手

神無七郎作

背面協力自玉スタイルメイト 16 手  
 (最終形)

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
										一								
						桂	桂			二								
										三								
							桂	桂		四								
										五								
										六								
						玉				七								
										八								
										九								

持駒 なし

【解説】

出題時のコメントで「背面」はスタイルメイトになりやすいと書きましたが、その理由を考えるのがこの作を解く早道です。

「背面」は相手の駒と背中合わせになったときに、性能が入れ替わるルールです。また、このサイトでは性能変化により動ける可能性がある駒は、一時的に盤上に利きがない状態になっても良いという、標準的なルール設定を採用しています。従って「背面」ではどの駒をどこに置いても「行き所のない駒」にはなりません。これは逆に言えば「行き所のない駒」になりそうな手をいくらでも指せるということを意味します。

本作は「背面」ルールのこの性質を利用して、性能変化のない通常ルールでは打てない「2段目の桂」を打ち、効率的なスタイルメイト型を発生させることを主眼としています。ついでに「2段目の桂」の存在を利用して他の桂も止めるようにし、「四桂詰」ならぬ「四桂止」のスタイルメイト型に仕上げました。初形の角配置はできれば持駒にしたかったのですが、さすがに余詰で無理でした。それでも、盤

上の駒も持駒も消さない初手が入ったのでよしとしたいと思います。

「背面」に限らず性能変化系のルールは通常駒が置けないところに駒が置けるので、珍しい詰上りやスタイルメイトが多く存在するはずです。今回の「氾濫 33」のお題「攻駒が残る自玉スタイルメイト」も、性能変化ルールの特性を存分に活かせるお題のはずですので、皆様の投稿をお待ちしています。

【正解者及びコメント】 (正解4名：到着順)

瘋癲老人さん

持駒だけで 12 手使うので残り 4 手は角の王手 2 回だろうと決めうち。

27 歩、26 桂の配置では最終形がないので歩は 2 枚とも取らせなければならぬ。そうすると玉は結構大きく動かさないといけないとか考えながら試行してたら意外とあっさり解けました。

36 銀から 35 角が巧い手だと思います。

☆ 瘋癲老人さんは前回の唯一正解に続き、今回も解答一番乗りでした。さすがお強い！解説にも書いた通り、本当は角を持駒にしたかったのですが余詰のため角は盤上に配置せざるを得なくなりました。せめて還元角にしようとしたのが 35 角配置なので、ここを見ていただけたのは嬉しいですね。

橘圭伍さん

久しぶりに解けたので解答します  
 最終図の想定が容易いので簡単に解けました  
 2 段目の桂とか動けなくて可哀そうです……

☆ 橘さんお久しぶりです。第 151 回出題以来の解答ですね。この問題の時も性能変化系のルール（対面）で、角 5 枚で詰ませるといった問題でした。こういう普段見ることのない最終図でも簡単に想定できてしまうというのは、発想が柔軟な証拠だと思います。

雲海さん

ルールと使用駒から 4 桂全て残ってスタイルメイトだろう、と決めうって解いたおかげですん

なりと解けました。

最初に銀を使うと角の処理に困り、どうしても2手オーバーするのですが、それでも最初は銀を使わず44角とするのがやや指しづらかったです。

王以外の攻方の駒が残るスタイルメイトでは、Kマドラシで40枚全て盤上に残る作や非標準駒数にして81枰すべて埋まった作品等が出てくるのでは、と楽しみにしています。(もしかして既にありますか?)

他は普通の協力自玉スタイルメイトも興味があるのですが、既に吉田氏の妖精賞受賞作があり(ピンを使わなくてもあれだけ残せるのは衝撃でした)、どういう表現が残されているかを思案中です。

☆ 盤が全部埋まっているスタイルメイトは第23回神無一族の氾濫で発表したことがあります。40枚盤上に残ったスタイルメイトは見ることがないですね。単に全駒が盤上に残る作なら普通作にもあったと思います。

王以外の攻方の駒が残るスタイルメイトはほとんど未開拓なので、新しい表現がまだまだ手付かずで残っていると思います。

雲海さんのご投稿をお待ちしています。

## NAOさん

このルールだけは解いておかないといけませんね。間に合いました。

スタイルメイトは詰め上がり形をしっかり意識しないとハマります。

盤面3枚と持駒6枚、計9枚の駒を16手で如何に処分するか?

通常は、王手に対する駒取りの2手で1枚処分できるが、本問は攻駒9枚だから普通は18手かかる。→普通でない手が必要

駒を捨てる以外は、ピンさせるか、行き所のない駒にするかのいずれか。

先手が不動駒の元になる手で王手を指し、それに対し後手が駒取りしながら、王手駒を不動にする手(一石二鳥)の手を指させる。

初形を見ると歩を取らせる形と不動の桂の形が見えてくる。

さて、本問は一石二鳥の手が3回(6手目、14手目、16手目)も出てきました。

普通の手数からすると(9×2-3×2=12

手)まで縮まる可能性さえありますが、駒が減らない普通の手(と言っても背面の角ですが)が2回(44角23玉、35角54玉)あり、普通に捨てる銀の2手と合わせて、謎解きの面白さが味わえる作品と思いました。

初手~2手めで駒が減らない序盤は指しづらい感じですよ。

ps. 詰四会の課題(桂ががんばっている)にも合致してますね。

☆ スタイルメイトで盤上も持駒もどちらも減らない手というのは「妙手」ですから、作者も最初の2手にはこだわっていました。

こうして感想で触れてもらえると、やはりこの手を入れて良かったと思います。

詰四会の課題「桂ががんばっている作品」との関連もご指摘通り。ちょうどそれに向けた作品を作っていたときにこの作の素材を得ました。この種の課題は形式的な条件よりも作図意欲が湧きますし、桂というちょっと変わった駒が主役だったのも良かったのでしょう。結構、いろいろなネタを拾えてとても有意義でした。

☆ 今回は「四桂止」の最終形が想定しやすかったようで、解答数は若干持ち直しました。

「氾濫33」の作品公募もありますので、これで少しでもスタイルメイトに興味を持っていただけたら幸いです。

更にスタイルメイトの創作をサポートする意味で「fm虎の穴」に記事を追加しました。題して「邪魔者は消せ」。協力自玉スタイルメイトをfmで検討するときのテクニックについて解説しています。ぜひご一読を。

次回の出題は一週間後(10日)。久々に投稿作品の出題を予定しています。

(2010.10.3 七郎)

# 詰将棋メモ

## 推理将棋第 37 回出題解答

担当 タラパパ

出題日 : 2010年9月4日

解答締切 : 2010年9月20日

### 推理将棋第 37 回解説 担当 タラパパ

新手、新構想。詰将棋の世界でも、推理将棋の世界でも、もっとも大きな価値の一つが独創であり、作家が等しく狙うターゲットです。独創と並び立つ、もう一つの価値が完成度。どちらを重視するかは人の価値観によりますが、なんといっても独創第一というのが担当の価値観です。今月の初級は”新構想”、上級は”新手”と、まさに大盤振る舞い(^^) 二度とこんな豪華な選題はできないだろうなあ～。

### 37 - 1 初級 DD++さん作 "3" の魔術師 13 手

「すげえ！この棋譜、13 手で詰むまで全部の手に "3" がついてる！」

(条件)

- ・ 13 手で詰んだ
- ・ 棋譜上 "3" のつく着手のみ

※ 「33 同角」は棋譜上では単に「同角」が正しく、棋譜に "3" はつきません。また”4 三”など漢数字は、"3" がつくものとお考えください。

出題のことば (担当 タラパパ)

3筋と三段目だけの着手なら居玉。居玉を詰めるには？

追加ヒント：

止めはあの駒を「打つ」手です。

### 推理将棋 37 - 1 解答

▲3 六歩、▽3 四歩、▲3 五歩、▽3 三桂、▲3 四歩、▽3 二銀、▲3 三歩成、▽3 一角、▲4 三と、▽3 三銀、▲5 三と、▽3 二飛、▲4 三桂 まで13手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	委	王	金	皇		皇	
二							飛			
三	歩	歩	歩	歩	と	桂	爵	歩	歩	
四										
五										
六										
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩3

解答者全員を『凄さのわかる男』にしてしまった奇跡の作品がこれです。

その第一が条件の美しさ。たった1つ「棋譜上 "3" のつく着手のみ」と、極めて簡潔かつ前代未聞の条件で、13 手を唯一手順にしてしまう神の悪戯。

その条件を美しい手順が支える。この条件から考える止めは3つしかない。31 飛と打つ。33 角と打つ。43 桂と打つ(又は跳ねる)。しかし13 手という手数を考えるとき、よほど天邪鬼でない限り、最終手はほぼ43 桂(打つか跳ねる)と決まったようなもの。手順の美しさは、ともすればまますり扱いされかねない無駄手の美しさとして現れます。

作意を見てもらえば分かるように、後手は34 歩と33 桂さえ指せばすみます。しかし2手で終えることは許されない。あと4手”指さねばならない”のだ。その4手で後手は、最終43 桂を阻害しないよう手を選んでゆく。そこに生

まれるスリリングな感触を楽しむ問題。

6手目に 32 飛では 33 歩成を取らざるを得ない。そこで 32 銀と 31 角の遊びを入れる空間を作る。その銀を 33 に立って最終手 43 桂への利きを消す。これをもう一度 34 に立つと 43 への利きが再生してしまうのだが、そこに幸便な 32 飛があって、美しくも無意味な遊びの世界が描かれる。

ミニベロ 「こんな1条件で限定できているとはムシが良すぎます。『箱入り娘パズル』を連想しました。」

■飽くない創造意欲へのご褒美なのでしょうが、このムシの良さはなんなのだ！

はてるま 「この手数がこんなシンプルな条件で見事に限定されているのは感激ものです。奇跡のような手順を掘り当てた DD++ さんに拍手！」

■はい。指し将棋の諺に例えれば”勝ち将棋鬼のごとし”。何もかもうまくいってます。

RINTARO 「飛車を使わずに歩で行く手を考えたら一瀉千里。後手の手が限定されているところに感動。」

■先手が 32 飛を置いて、35 桂と打ち 43 桂と跳ねる順も有力で、私の直感実はこちらでした。

作者 「『ためしにこんな条件をつけてみよう』と設定して手順を探したら、攻方7手玉方2手の順を発見。「後手に無駄手が4手もあるのか困ったな」と思いつつよく考えてみたら、実は条件を守りつつ詰みを邪魔しない指し方が盤上任意着手4回の中でたった1組だけだったという奇跡の問題です。そういえば、将棋連盟では実は段も算用数字で書く形式を正式に使っているという噂をチラッと聞いたことがあるのですが、本当なんではなかねえ。」

■連盟でその動き？ウソっぽいなあ（笑）

躑躅 「3が常に入る後手の応手はこれしかないですね。」

■そのことが何より不思議です。

香箱 「『同 XX 』」がないというのが大きなヒント。」

■『同 XX 』がないというのは、ヒントというより条件なんですけどね(^^)

斧間徳子 「手数以外にこの斬新な1条件だけで解が唯一に決まるというのは、本当に奇跡のようですね。32 銀～31 角～33 銀～32 飛がこの斬新な条件によって出現した妙手順。」

■まさしく。

中村雅哉 「この条件で手順が限定されている事に脱帽。」

■氏をして”脱帽”の言葉を漏らさせるとは！

NAO 「飛車を使おうとしたら頓挫しました。歩で一本道ですね。」

■はい(^^)

宮谷保可楽 「この条件で居玉を詰ますとなると、53に金なんかを置いて桂吊しぐらいしかなく、しかもそうと決まれば、あとは手なりで一気に解けてしまった。奇跡的な条件に奇跡的な手順。」

■ほんとうに、どうして成立してしまったのでしょうか？

けいたん 「31 角までは、普通の発想とも言えるが 32 飛がすごい。」

■よくまあ、この手が残っていました。

隅の老人B 「当たり前の話だが、これで手順がこれしかない。文章の妙、ここにあり、ですね。」

■”3”という数字に着目した作者のフィナーレでしたね。

リーグ戦ファン 「解くのは2度目なのですが、なぜか「3筋だけ問題」と早合点して、どう頑張っても15手かかるはず・・・2週間以



上悩みました。初めて解いたときは5分だったのに(苦笑)この順が限定できているのはまさに奇跡です。12手目▽34銀では詰まないなんてことが予め計算できるはずもなく、人智を超えて「選ばれし問題」という気がしてます。」

■「選ばれし問題」を発掘したDD++さんも「選ばれし人間」。

渡辺 「3筋の歩が素直に33に成って53まで動き33で取った桂を打つ。これで間に合っているんですね。分かってみれば何てことないのですが、実はタラパパさんの問題が頭にこびりついていて、最終手31飛や33角の筋ばかり考えてものすごく手数が足りない状態でずっと悩んでいました。ヒントを見ても「あの駒=飛or角」と思っていて何の役にも立ちませんでしたし…。」

■あらら (><) なまじ豊富な知識が災いした?

たくぼん 「13手で1条件ながらこの易しさは、推理将棋くるくる大賞級だ」

■くるくる大賞!

鈴木康夫 「この条件でが完全限定できているのは素晴らしい。」

■あつてはならない手順ですよええ〜って、これは作者になれなかった者達の妬み(笑)

はなさかしろう 「解図は居玉へのオーソドックスなアプローチで易しいのですが、一仕事終えた後の後手の駒さばきが絶妙!!——これは奇跡と認定して良いのではないのでしょうか?」

■そうなんですよ。えもいわれぬ駒捌きでした。認定して……いいでしょうかねえ〜?(^^;

竹野龍騎 「究極の条件作。」

■これは文句なしに認定(^^)

占魚亭 「後手の手の組み合わせに少し苦労しました。」

■遊びの4手ですね。

はらたっと 「これはパズルのような作品。3筋の駒の入れ替えが見事です。」

■遊び手がかほどに評価される作品は、そうそうあるものではない(^^)

正解: 20名

斧間徳子さん けいたんさん 香箱さん  
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん  
たくぼんさん 竹野龍騎さん 躑躅さん  
DD++さん NAOさん 中村雅哉さん  
はてるまさん はらたっとさん  
はなさかしろうさん ミニベロさん  
宮谷保可楽さん リーグ戦ファンさん  
RINTAROさん 渡辺さん

### 37-2 中級 ○術師さん作 4筋が急所 10手

「第2局は10手で詰んでしまいました。K九段、講評をお願いします。」

「4筋への大駒の着手6回がポイントだったと思います。」

成った手が微妙でしたか。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか?

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 4筋への大駒の着手が6回
- ・ 成る手があった

出題のことば(担当 タラパパ)

詰上がりも含めて、4筋攻めの基本手順といえる筋です。

追加ヒント:

22の角以外、すべての大駒が動きました。

▲ 7六歩、▽ 4四歩、▲ 同 角、▽ 4二飛、  
▲ 5三角成、▽ 4七飛不成、▲ 4八飛、▽ 同飛不成、▲ 3八金、▽ 4九飛打 まで10手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	香	王	香	駒	科	皇	一
							馬		二
歩	歩	歩	歩	馬		歩	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	七
					金				八
香	桂	銀	金	王	香	銀	桂	香	九

持駒 歩2

4筋への大駒の着手といえば、主役は当然角ではなく飛車。そして明らかな障害は 47 歩と 43 歩。先手玉に迫るには歩の障壁を越えて、先手陣に飛車を送り込まねばならない。

思いつくもっとも自然な手順は、「46 歩、44 歩、45 歩、同歩、48 飛、42 飛・・・」と進めるものなのだが、すでに小駒の手が4回で目一杯。このあと 45 飛、同飛と進めても、手数もまたぜんぜん足りない。

これに変わる手があるとすれば、「76 歩、44 歩、同角、42 飛」しかない。この手順は、「76 歩、32 飛、33 角成、同飛」と並んで、後手の飛車を使う二大筋の一つとってよく、数多くの作品で用いられる。

序の4手を確定したところで、収束を読んでおきたいところ。できるだけ玉を動かしたくない。そして居玉か否かを別にしても、4筋攻めの弱点 68 地点からの逃走をどう遮るかという課題を解決しなければならない。実はここにも定跡というべき手段がある。4筋の駒で 68 を塞ぐには、48 に生飛車を置くこと。止めは 49 に飛か金を打つ形。それをアシストするのが、邪魔になった 44 角を5手目に”成る”

手。

ミニベロ 「詰みを構成する順には成りはなく、邪魔角を逃がす手に成りを求める旨い限定。」

■ 小味な限定条件で、旨さを感じます。

はてるま 「4筋に集中といえば、このオープニングでしょう。条件がすっきりまとめられているのが好感触。」

■ はい。オープニングはいわば定跡手順ですから。

RINTARO 「成った手が微妙との記述より、成ったのは先手の手と考えれば 53 角成に辿り着く。」

■ なるほど、”微妙”を捕まえましたか。

はなさかしろう 「『成る手があった』による5手目の限定が絶好ですね。9手目の金のロールアウトがいい感じ。基本手筋がシンプルに活きています。」

■ 限定移動と、限定成を両立させた好条件でした。

DD++ 「成る手があった」は先手角の行き先限定にもなっていて非常にうまい限定ですね。ただ、先手玉周りで成が指したくても指せない手順すなわち「玉コビンに生飛を置いて駒打ちまで」じゃないとこれが限定条件として機能しないことにうっかり気づいてしまい、オチのネタバレを意図せず先に見てしまったようななんとも言えないしょんぼり感が残る結果に……。非限定消しが綺麗すぎるのも、それはそれで困ることもあるんですね(笑)」

■ たぶんそれは、DD++さんが定跡通だから？

香箱 「4筋を開通させれば収束まで一直線。こちらが初級でしょう。」

■ ベテラン勢にとってそうなのは分かっているのですが。たとえば初挑戦の方には”3”という明確な指標が解き易いかな？と

斧間徳子 「『成る手があった』という条件で53角成を限定するのがうまい。」

■技術面で最も光るところでしょう。

中村雅哉 「定番のパターンだが、成る手を4筋の手と思い込むと悩みそう。」

■スイリストとしては、知っておくべき手順と言えます。

NAO 「4筋に大駒の手を意識したら、すぐ解けました。」

■6回という厳しさが、解き易さを演出することになりました。

宮谷保可楽 「4筋集中攻撃のお手本。参考になりました。」

■6筋にも応用が効きますので。ご参考までに(^^)

けいたん 「既成と感じてしまう。ミクシィでの推理将棋の発展は本当にすごいと思う。」

■推理将棋の代表的な手順、今後も少しずつ紹介したいと思っています。もちろん既成でもネ。

隅の老人B 「『成った手が微妙』、これで全手順が決まります。不成が3回では、ヒントが多すぎる。」

■不成3回としないところが条件設定の妙でした。

リーグ戦ファン 「この問題、4筋に指せる大ゴマの手を羅列していくと、自然に詰め形に近づいていきますね。『成る手があった』が先手角の行き先限定だったところが面白いです。」

■自然な中でのポイントは53角成と48飛不成。はじめて見ると”上手いなあ〜”と思う手です。

渡辺 「成る手があったで角の動きを限定できているのが面白い。良くある筋(mixiでは拙作、まささん、Normanさんに作例あり)なので第一感でした。」

■成る手、大駒6回。この条件が担当のお気に入りです。

たくぼん 「4筋が主戦場となるとこの順が王

道ですね。成る手があったの条件がうまいですねえ」

■成る手。○術師さんのセンスの現れでしょう。

鈴木康夫 「4(6)筋詰の基本ですね。」

■はい(^^)

竹野龍騎 「『成った手』がとぼけた味。」

■食べてみて、はじめて分かる”味”でした。

はらたっと 「4筋の大駒は先手2後手4回できめうちし、『成る手があった』にしばし立ち止まりましたが、後手は成れないから先手角成りとわかり解決しました。」

■『不成があった』なら普通の条件、『成る手があった』は意外に珍しい条件なんですね。

正解：19名

斧間徳子さん けいたんさん 香箱さん  
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん たくぼんさん  
竹野龍騎さん 躑躅さん DD++さん  
NAOさん 中村雅哉さん はてるまさん  
はらたっとさん はなさかしろうさん  
ミニベロさん 宮谷保可楽さん  
リーグ戦ファンさん RINTAROさん  
渡辺さん

### 37-3 上級 けいたんさん作 王手成 11手

「さっきの将棋11手で詰んだんだって。2手目は玉の着手だったよね」

「ああ、飛成の王手と角成の王手があったよ。それから、終局時玉は4段目だったな」

さて、どんな将棋でしょう？推理してくださいね。

(条件)

- ・ 11手で詰め
- ・ 2手目は玉の着手

- ・ 飛成の王手あり
- ・ 角成の王手あり
- ・ 終局時玉は4段目

出題のことば (担当 タラパパ)

後手による巧妙な退路封鎖手段を考えてください。

追加ヒント：

7手目は飛車を取る手で、10手目は小駒の妙手。

推理将棋37-2 解答 担当 タラパパ

▲7六歩、▽6二玉、▲6六角、▽7四歩、  
▲9三角不成、▽7三玉、▲8二角成、▽8四玉、  
▲7三飛、▽9五香、▲8三飛成  
まで11手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	科	馬	香		香	馬	科	皇	一
	馬						皇		二
	龍		歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
	王	歩							四
皇									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

4段玉での詰上がり条件を除けば、どれも何でもない条件ですが、推理将棋にかつて見ない驚愕の一手が現れます。

玉が4段目まで上がるのに後手の手数で4手かかります(3手の順は、76歩、42玉、33角成、同玉のみ)。飛成の王手は取った飛車と考えるのが自然。すると本線は後手の飛車に狙いをつけること? 2手目玉の条件がここで効いてきます。単に手順前後対策ばかりでなく、42で飛車を取らせない二重条件となっています。飛車を82で取るなら、76歩、62玉、

55角、74歩、82角不成が自然ですが、73から抜けられない後手が64歩を突いても、71角成、63玉、52飛、54玉、53飛成で失敗します。

そこで目先を変えて「角成の王手」が後手なのか?と疑ってみます。そこに鋭い順がありました。36歩、42玉、46歩、34歩、78飛に77角成で王手条件を消化。77同飛、33玉に45角と打って54を押さえ、44玉に73飛成!まで。しかしこの手順、普通の詰将棋では”詰み”でも、無駄合の概念がない(王手が排除できるならすべて有効手)推理将棋では、まだ詰んでいないのです。最後に7筋の歩を取ってしまったために、73飛成に77歩合!が成立し、詰みとは判断されません。

55から飛車を取るのも、先手の飛車を使うのもいけません。先の82角不成ルートは先手角と後手玉が73で交差し、玉が出てくる道に立ちはだかってしまいました。

玉を引っ張り出して詰ませるのは、けいたんさんの十八番ですが、そこに時間差を持ち込んだのが本作における好着想。62玉形ではなく、わざと一手遅らせて73玉形に、裏から82角成の王手を持っていくのです。66~93~82角のルート。この着想が”新手”を持ち込みます。何もない空間にふっと現れるような95香!の限定移動。その移動のために73飛まで限定させてしまうことも見逃せません。

中村雅哉 「95香が面白い。」

■成や不成を稼ぐための香移動はありましたが、ここに移動するのは珍しい。

はてるま 「28の飛を王手成するのは難しいので、82の飛車を取りに行くのだらうとは思いましたが、93から侵入するのは裏口から行く感じでなかなか気がつきませんでした。「話題の手」95香も独特な感触でgood。「けいたん不思議流」とでも呼びたくなる個性です。」

■う〜ん。ファンタスティック!

DD++ 「以前詰工房にお邪魔させていただいたとき、この作品の10手目についてタラパパさんと話が盛り上がりかけたものの、ネタバレして会話するわけにもいかず悶々としていたを

の思い出しました。これでようやくこの 10 手目についておおっぴらに盛り上がりそうです。でもそのためにはなんとか都合を合わせて工房にいかないと・・・。」

■やられた！という妙手ですよ。

ミニベロ 「95 香は新手ですね。飛車の打ち場所も自動限定。見つけにくい作意順ですが、飛車成りの王手を解決すれば論理的に解ける好作です。」

■ベテランであるほど、95 香の価値に敏感。

作者 「一旦逃してから捕まえるのがコツです。」

■画期的な新手の割には、なんと簡単なコメントでした（笑）

RINTARO 「82 飛を取るのは必然。55 ルートが一目だが、66 ルートでもいいことに気付く。推理将棋は疎いのでよく分からないのですが、賞賛を集めた手とは 95 香でしょうか。」

■退路塞ぎは日常的に見られる手筋ですが、中空にバルーンを浮かせるような穴塞ぎは初めてなのです。

躑躅 「簡単に解けたのですが、『珍しい一手』がどれか分かりませんでした。95 香ですか？」

■易しかったですか？(^)珍しい一手はまさにそれ。

香箱 「7 手目までに飛車を取る方法。95 香もさることながら 66 角が好感触。」

■5 手で取ると失敗するメカニズムが、なんともなしに珍妙です。

斧間徳子 「最初は 76 歩→55 角→82 角の順かと思いました。66 角→93 角のルートを見つけてからも一筋縄では解けない。95 香浮きの味が絶品！これに付随する 73 への飛車の限定打も好感触。相当ハイレベルな今月の 3 題の中でも、私的には本作が 1 位。」

■けいたんさん、この評は最低 3 度読んでください（笑）

NAO 「難しい。9 手目以降は目から鱗の手順でした。」

■私もそうでした。

宮谷保可楽 「後手の 5 つの指し手のうち、玉だけで最低 3 つと歩を一つ進めることが必要で、残る 1 手でどう退路を封鎖するのかわかっていたら、93 歩を取らせておいて 95 香と走るとは!! うまいなあ・・・。」

■95 香。まさに絶品！

隅の老人 B 「『角成りの王手』で不成りが決まる。手順を考え出すのも大変でしょうが、文章の方がもっと大変？」

■文章を考えるのって、けっこう楽しいんですよ。

リーグ戦ファン 「後手の 5 手は玉・歩・玉・玉・α だけなので、先手の飛車を活用するのは難しそう。となれば、角で後手の飛車を取って打って成ってトドメ、が本線。4 段目に上がる玉に対して角が敵陣に入り込むときは玉の逃げ道とは反対側から成らないと玉が上がれないので、まず 93 から成りこんで・・・としたら、たちどころに詰んでしまいました。実は、このまともな手順を追う前に、『4 段目に上がったのは先手玉』とか『大ゴマの王手のどちらかが実は後手のもの』とか、いろいろ叙述トリックを疑って楽しんだ時間があったのですが。というわけで、ひさびさに叙述トリック問題もお願いします！」

■叙述トリックですか？ふふふ、どうしましょう。

渡辺 「いかにも『けいたん』風詰上がり。しかし今回は条件付けが良い感じですね。条件から作者の過去作品「八兵衛」が連想され『82 馬、83 飛成、84 玉』の詰み形は第一感でした。ただ『96 歩、75 歩』型を想像したため、逆なら出来ることに気付くまで 5 分程を要しました。」

■それが第一感とは！渡辺さん、身体にどこか異常ありません？（笑）

たくぼん 「難問ということでヒントが出るのを待って考えようと思っていたのになかなか出

ない。仕方なしに考えると思いもよらず数分で正解に辿り着いた（こんなこともある）。難問という言葉がヒントになったのかも。後手玉の移動順限定は62-73-84が本筋。飛を取るルートは55角から行くと73で玉と干渉しそうというわけで66-93からと考えました。」

■たくぼんさん、それはズルですよ（笑）でも次はもっと早めにヒント出します。

はなさかしろう 「2手目から角成は先手の元々の角、飛成は先手が後手の飛車を取って実現、後手玉は盤の中央ないし左に出てくるのが推測できるのですが、73の渋滞を回避する93角不成がポイントでした。95香、絶好の一手です。」

■渋滞回避とは、うまい言い回しですねえ。

-----  
正解：16名

斧間徳子さん けいたんさん 香箱さん  
隅の老人Bさん たくぼんさん 躑躅さん  
DD++さん NAOさん 中村雅哉さん  
はてるまさん はなさかしろうさん  
ミニベロさん 宮谷保可楽さん  
リーグ戦ファンさん RINTAROさん  
渡辺さん

-----  
**総評**

ミニベロ 「鶴首して結果稿を待っています！」

■どう、リアクションしましょう(^^;

DD++ 「今回は私自身の都合で大の苦手な暗算勝負を強いられ、どこまで解図できるか不安でしたが、初級は拙作、中級も4筋集中で暗算しやすい問題、上級はmixiで解いた時に印象が強くて手順を覚えていた問題、と並んでいてホッとしました。あとは棋譜の手書きに書き間違いがないことを祈るのみ……。」

■明らかな書き間違いは誤解にしませんからご安心を(^^)

中村雅哉 「久々に一桁物なしですね。作品はどれも好作ですが、解答者が減らなければいい

ですが…。」

■私も実は心配でした。20名は思いがけない数で、ありがたい限りです。

隅の老人B 「今日も暇、推理将棋でも（でもだよ）、解きましょう。平和で安楽、良い日本、これで政治に文句にないよ。不満の輩は贅沢すぎる。『不自由を常と思えば……』戦中派の爺さんの言いそうなことですね。」

■戦中派のじっさまも、不満は贅沢って不満漏らして（笑）

渡辺 「今回は評判とは違い、自分に取っては手順通りの難度でした。所要時間は、初級3日、中級1分、上級5分でしょうか。13手詰めはどうしても苦手意識があります。もう少しで中級上級だけの解答になるところでした。」

■ええ————っ！ はてさて、難易度は分からないものです。

はなさかしろう 「見つけた手順に奇跡の一着があると何度も並べ直したくなります。これは難問を解く喜びとは別。今回は決して難しくありませんでしたが快作に巡り合えました。」

■素晴らしい作品を作ってくれた作者さんたちに感謝。

占魚亭 「中級は全く分からず、上級はもう少しで解けそうというところでタイムアップ。無念。」

■不思議なことに、だんだん解けてくるものです(^^)

-----  
推理将棋第37回出題全解答者：20名

斧間徳子さん けいたんさん 香箱さん  
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん  
たくぼんさん 竹野龍騎さん 躑躅さん  
DD++さん NAOさん 中村雅哉さん  
はてるまさん はなさかしろうさん  
はらたつとさん ミニベロさん  
宮谷保可楽さん リーグ戦ファンさん  
RINTAROさん 渡辺さん

当選： 宮谷保可楽さん

# JIGSAW BOX #05 結果発表

第1番 たくほん (登場11回)  
対面協力詰 29手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
		馬	香					王	八
			香						九

持駒 歩5

19歩 同玉 89香 28玉 29香 同玉  
89歩 38玉 39歩 同玉 89歩 48玉  
49歩 同玉 89歩 58玉 59歩 同玉  
89歩 68玉 79歩 77玉 78歩 同玉  
69金 68飛 同金 79玉 69飛 まで 29手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
		馬	金						八
			王 飛						九

持駒 なし

第29手目 69飛 まで

作者—くるくる趣向で解答者増を目指します。  
神無七郎—対面ルールではよくあるパターンですが、「歩の遠打4回」と書くと凄い作品に思えるから不思議。  
☆受方の88龍を利用して歩による側面攻撃を連発する、対面ルールではお馴染みの手筋。  
隅の老人B—どこで趣向を止めるかが、難しい。決め手は、68飛打。この応接が対面の妙手です。

第2番 神無七郎 (登場5回)  
最悪詰 20手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	王								一
									二
			香		王		金		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛歩5

99角 88飛 85角 82歩 A72玉 B73歩  
63玉 64歩 52玉 63歩成 同角 53歩  
41玉 52歩成 同角 42歩 31玉 41歩成  
同角 22金 まで 20手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			香		王		金		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩4

第5手目 72玉

A : 5手目71玉は81歩成以下6手長い。  
B : 6手目73歩のところ62香成は、同玉 63歩 53玉 54歩 同玉 55歩 64玉 68飛 65香 同飛 53玉 54香 まで2手早い。  
作者—士1枰を攻方玉に割り当てての投稿です。繰り返し3回のミニ趣向で、趣向の種となる角が合駒で出るのが取り柄です。6手目の変化が難しいので、作意より変化の方が面白いという感想も来そうですね……。なお、63香配置は5手目71玉の紛れを手数オーバーで乗り切るための配置で、これがないと5手目71玉に対し81歩成、62玉で作意6手目62香成の変化に合流

してしまいます。また、持駒が「飛歩5」ではなく「香歩5」なら63香は不要になります。要するに63香は握り詰用の苦肉の配置なのです。

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

第20手目 22金 まで

☆歩を成り捨てて（成り捨てさせて？）、3手目に合駒で85に発生させた角を引き付けていく趣向手順。最後は41角が壁になっての詰み。

隅の老人B—初手で敵飛の動きを封じるのが、好手。対して85角合も巧み。詰むように、詰まないように、これで感覚が狂います。

たくぼん—中合いの角を発生させ、その駒を使い趣向手順を発生させるとは恐れ入りました。

☆作者が気にしていた6手目の変化については、正解者からは特に言及無し。この点については、無解者に感想を聞く方が良いのかも？

第3番 たくぼん（登場12回）

対面協力詰 7手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 金

72金 73飛 同金 72角 75飛 54玉  
55金 まで 7手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

第7手目 55金 まで

☆攻駒が少ないので、対面ルールを活かして初手72金（飛の性能）から合駒を入手。その金が、最後は角の性能になって斜め後ろへ飛びます。

作者—余詰防止の為、歩をほとんどと金で使ってしまった。53とのカムフラージュとも言えます。

☆金の上に玉が乗っている詰め上りは安南詰でよく見ますが、本局は対面なので、と金は単に53の地点を塞いでいるだけの役回り。

神無七郎—対面というより安南っぽい詰り。入玉型にして金の最初の移動距離を大きくしたい気もしますが、紛れが減るのを嫌ったのでしょうか？

☆例えば玉が88→28、金が83→29みたいな感じでしょうか。

隅の老人B—2, 4手目、やるもんだねえ。最後まで、対面詰の妙味がいっぱい。

第4番 たくぼん（登場13回）

キルケ協力詰 16手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし

受方持駒 歩



41歩 29と 同玉 28金 同玉 /49金 38金  
同歩生 /49金 39金 37玉 48金 46玉 57金  
同龍 /49金 47歩 37玉 38金 /33歩 まで  
16手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					香				一
									二
									三
									四
						皇	香		五
									六
					歩	玉			七
						金			八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 歩

第16手目 38金/33歩 まで

作者一初手は使用駒の帳尻あわせです。49金復活が3回位では少ないかなあ。

☆第2番(神無七郎作)の受先初手は、攻方持駒の飛の使途を限定するためでしたが、こちらは、初手で41の地点を塞ぐことによって、2手目29と /41金を未然防止する意味。

神無七郎一後ろ13手が良い手順。特に7手目の不成がキルケルールを活かしています。握り詰でなければもっと良い序が付けられた?

☆7手目にうっかり38歩成 /49金とやってしまうと、8手目39金 /33歩となって、攻方が歩を入手出来ません。

隅の老人B一初手はこれしかないね。取られても取られても、金が戻ってくる。羨ましいな。

第5番 神無太郎(登場6回)

普通詰 33手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
								香	二
								玉	三
									四
									五
									六
								香	七
									八
									九

持駒 歩2

14歩 同玉 12飛成 13金 15歩 同玉  
13龍 26玉 24龍 36玉 34龍 46玉  
44龍 56玉 54龍 A66玉 65金 76玉  
74龍 86玉 75龍 96玉 97歩 同玉  
77龍 96玉 87金 85玉 86金 94玉  
74龍 84歩 85金 まで 33手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金歩

第15手目 54龍

A: 16手目55飛・角・金・銀・桂合は57金以下。16手目55香・歩合は57歩以下のいずれも早詰。16手目46玉は以下作意同様(但し左右反転)で進んだとき、25手目から15龍、16合、28金までの早詰。

作者一さすがに普通の詰将棋はNGですかね。

小一ん一。まあ無理矢理出題する方法を考えますのでとりあえず図面作意ブリーズw

作者一では添付しておきます。

☆という、ごく軽〜い成り行きで採用決定になった本局。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

第33手目 85金 まで

神無七郎一素朴な横追い趣向。玉が16地点を通っていたら完全な盤上横断だったのに…。金の利いていない5筋でも合駒ができないのが、ちょっと面白いですね。

☆アマレン杯を創っている間に2枚目の金が必要になってJIGSAW BOX行きになったのではないかと推測。従来から”便乗企画”と称してきましたが、ここまで便乗して来た作品はさすがに初めてです(^^)；

隅の老人B—普通?の詰棋。これなら毫碌爺でも大丈夫。朝の渚を王と散歩ですね。

たくぼん—なるほど普通詰将棋もフェアリーの一部ですね。全国大会の応募作そのまま流用?少ない駒数でうまくまとめていると思います。

第6番 雲海 (登場2回)

協力白玉詰 24手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

29龍 28飛 同龍 同玉 38飛 19玉  
 39飛 29飛 同飛 同玉 99飛 89飛  
 同飛 79角 69飛 59銀 同飛 49角  
 38銀 28玉 29銀 27玉 38銀 同角成 まで  
 24手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

第24手目 同角成 まで

作者—懲りずにまた遠打です(笑)。一応短打(5手目、短打しかない局面ではありますが)も入っていて、対比も狙いとなっています。ただ、合駒の意味づけや意外性という面では、去年のよりはやや劣っている印象があります。

☆1年前の遠打プレイ・バック!

協力白玉詰 26手

【第11手▲9六飛まで】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲なし
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

神無七郎—前回の遠打は想定外。今回の遠打は想定内。でも飛合を繰り返す序など、指定駒をうまく利用して流れの良い手順に仕上がっていると思います。

隅の老人B—飛には飛をとっていたら、79角合。上手に57歩に紐を付けました。続く銀合、角合、いつも雲海さんには難儀する。

☆大雑把に書くと、79角合で57歩に紐を付ける、59飛で王の退路を塞ぐ、49角合~38角成で王の腹に馬を作る、という流れです。

たくぼん—昨年同様に握り詰で最遠打からの限定合4連発とはさすがで言葉が出ない。

☆やはり前回との比較で論じている人多数。僕も総体としては昨年の方が上だと思いますが、初形と詰上りの対比という面では本局の方がよく出来ていると思います。

【総評】

神無七郎—前回に比べると今回は正直言って物足りませんが、利用できる駒種が少ないことを考えれば、まあまあの内容でしょう。普通詰将棋は締切に間に合わずにこちらに回ったのでしょうか?

☆例年並みに戻っただけですが、昨年はクオリティーが凄かったですから、どうしてもそう感じてしまうのでしょうか。

隅の老人B—猛暑の8月、頑張ったが、全題は解けず。9月の下旬、ようやく秋の気配、涼しくなった、解図の続行。簡単に解けたのは、5番だけでした。いつも思うことですが、作家の皆さんは、私と違ってお忙しい?のに、よくまあ、こんな難問を創れるな、です。

☆本当はもう少し暇がある筈なのに、謎に忙しくてあからさまな手抜き解説になってしまいました。だらしなくてすみません。

☆ついでに広報も例年より手抜きだったせい

か、解答者数も減ってしまいました。もっとも最近では僕自身解答をサボってばかりですが。たくぼん一七郎さんの最悪詰、雲海さんの協力自玉詰の好作と昨年と同じような感じですね。それにしても限られた駒数で傑作を創る技術には脱帽です。担当者さんの作品も次回をお願いしますよ。

☆その前に非握りの作品すらここ1年創ってないので、そこからリハビリしないといけません…。

☆ではまた来年お会いしましょう！

小峰耕希

<解答成績> (全3名)

【全題正解】

神無七郎 隅の老人B たくぼん

## 第9回 詰四会フェアリー作品展 解答発表

課題：桂が頑張っている作品

今回の課題は、「桂が頑張っている作品」でし、解答者は四名でした。

第1番 たくぼん作 対面協力詰 17手  
正解者3名

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					桂	桂	桂	玉	一
									二
					桂	桂	桂	桂	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩4

\* 受方持駒なし

12歩 同玉 24歩 22玉 12歩成 32玉  
24歩 同桂 44歩 23玉 13と 同玉  
25桂 22玉 33桂成 11玉 12桂  
迄 17手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					桂	桂	桂	玉	一
								桂	二
					桂	圭			三
					歩		桂		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

**橋本孝治**

最初は3手目から14歩 同桂 12歩成 … という筋が目についたのですが、全然駒不足。かといって左辺への脱出もダメ。24に穴を空ける単純な筋が意外と見えづらかったです。更に12手目からも12歩 35桂 22玉 23桂成 11玉（反則！）などと指してしまい、勘が鈍っているのを痛感しました。

**雲海**

逃げ道を増やす7手目と8手目の応酬に協力系の味を感じます。

**たけとひで**

気持のよい最終手。一段目の桂は3枚必要なの？

- ★ 余詰防止に全て必要です。
- ★ 桂が頑張っているようには余り見えませんが、客寄せの作品がなかったので急遽創りました。11から11への還元玉が僅かな主張でした。

**第2番 神無七郎作 強欲協力詰 49手 正解者2名**

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一					桂	飛	玉			
二					歩	桂				
三					銀					
四					飛	銀	金			
五					角		歩	歩		
六										
七										
八										
九										

持駒 桂19

※ 使用駒無制限

- 13 桂 11 玉 23 桂 同金 21 桂成 同玉
- 33 桂 同金 13 桂 22 玉 21 桂成 同飛
- 14 桂 23 玉 35 桂 同銀 22 桂成 同玉
- 34 桂 同銀 14 桂 12 玉 24 桂 同銀
- 22 桂成 同玉 14 桂 23 玉 35 桂 同銀直
- 22 桂成 同玉 34 桂 同金 14 桂 31 玉
- 23 桂 同飛 43 桂 同飛寄 22 桂成 同玉
- 14 桂 21 玉 33 桂 同銀 13 桂 31 玉
- 23 桂 まで 49手

**詰上図**

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一						桂	玉			
二						歩	桂			
三						飛	銀	桂	桂	
四						飛	金		桂	
五						角	銀	歩	歩	
六										
七										
八										
九										

持駒 なし

**作者**

課題に合わせて攻方は桂のみという条件でやってみました。桂“だけ”が頑張っているフェアリー作品です。

**雲海**

解いている時はまさしく倉庫番を解いている気分でした。難しかったけれど面白かったです。もっとこの手のものを突き詰められないかなあ……

★桂を使って玉方の駒配置を変えていき詰み型を目指すということになります。具体的には、

1. 24 金→ 33 金
2. 31 飛→ 21 飛
3. 34 銀→ 35 銀
4. 43 銀→ 34 銀
5. 35 銀→ 24 銀
6. 34 銀→ 35 銀
7. 33 金→ 34 金
8. 21 飛→ 23 飛
9. 23 飛→ 43 飛
10. 24 銀→ 33 銀

最終的に23への玉方の利きを無くして三桂詰で詰め上げます。雲海氏も言われてますが倉庫番のような手順で究極のパズルと言った感じです。作者以外の正解者が1名というのは寂しかったですね。もっとたくさんの方に味わって欲しかった作品です。

## 第4番

一乗谷酔象 作

【推理将棋】桂ががんばった堂々巡り

正解者 5名

「4手目から『同X』を連続して48手目で詰んだよ。7回目の王手だった」

「ホントかい？投了図を見せてよ。ホウ、桂ががんばっている面白い形だね。

先手陣にいる駒は先後合わせてたった4枚だけど隣あっている駒がないね」

「そうなんだ。飛を飛不成で取り、桂を桂不成で取る新定跡だった。しかも、桂を桂不成で取る手は16手目と42手目の2回もあった」

「へえ。棋譜もを見せてよ。ホウ、ずいぶん不成りが多いね。成りは王手の1回

だけか。連続王手も2度あったね。角の連続王手では歩を2枚取った。

先手は68と38で銀を連続してとられたのが痛かったね」

◎48手で詰み。王手は7回。成りは王手の1回のみ。

◎先手陣（7～9段目）にいる駒は4枚で駒同士が離れている。

（縦横斜めで隣り合っていない）

◎先手の条件

・68銀、38銀の順に連続して指した（取られた）

◎後手の条件

・4手目以降「同X」の連続  
 ・飛不成で飛を取った。16手目と42手目は桂不成で桂を取った。  
 ・2回連続の王手が2度あった。角の連続王手では歩を2枚取った。

さて、桂ががんばっている投了図とはどんな将棋だったでしょう。推理してください。

76歩 32飛 33角生 同飛 36歩 同飛  
 16歩 同飛 26歩 同飛 13香生 同桂  
 25歩 同桂 37桂 同桂生 66歩 同角  
 75歩 同角 96歩 同飛 98飛 同飛生  
 86歩 同角 77歩 同角生 68銀 同飛生  
 38銀 同飛生 68金 同飛生 93香生 同桂  
 85歩 同桂 48金 同飛生 77桂 同桂生

46歩 同飛生 56歩 同飛 57角 同飛成  
 まで 48手

詰上図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇		駒	香	王	香	駒		皇	
二										
三		歩	歩	歩	歩	歩		歩		
四										
五										
六										
七			桂		駒		桂			
八										
九					王					

持駒 なし

作者（投稿時）

詰四会向けに気が利いたフェアリー作品をと思いましたが、最近、推理将棋の同々巡りシリーズにハマってしまい、推理将棋を投稿したいと思います。

★ 作者にコメントを頂きましたのでそれをご覧下さい。私も王手7回に散々悩みました。

作者

mixi推理将棋コミュニティでは、様々な手順の条件付けが試みられています。「4手目から後手が『同・・・』を連続する手順」もその条件付けの一つ。この条件を基本とする最初の出題（14手詰と22手詰）は、作者のへっぽこ氏が『同々巡り』『同々巡り2』と巧い命名をされました。ここでは、この「4手目から後手が『同X』を連続する手順、推理将棋」を「同々巡り」問題と呼ぶこととします。

同々巡り問題では、最長何手まで手数を延ばせるかということが話題となりました。現在のところ、最終形によって手数は異なりますが判明している最長手数は次のとおり。

- 1) 先手玉が詰み：54手
- 2) 先手玉がスタイルメイト：56手
- 3) 最終手が王手：58手

最長手数探索はそれで面白いのですが、手順には非限定が無数にありそのままでは推理将棋として成立しにくく相当の条件付けを加えない

と問題にはなりません。その一方で、長手数問題は、一見して難解であり敬遠されがちかと思えます。そこで、ヒントを兼ねた限定条件付けを多用するのが有効になってきます。

さて、出題の「桂ががんばった推理将棋」ですが、詰上がり(59玉 vs 37桂 57龍 77桂)が48手で可能なことを確認し、最長手数探しの際見つけた筋を取り入れました。ただ、元々手順前後と非限定が多い手順ですので、次のような条件を加えました。

1) 道標のような条件

- ☆ 16 手目に桂不成で桂を取った。
- ☆ 42 手目に桂不成で桂を取った。
- ☆ 飛不成で飛を取った。
- ☆ 68 銀、38 銀の順に連続して取った。
- ☆ 角の連続王手では歩を2枚取った。

2) 推理すべき条件

- ☆ 王手7回
- 実際に解図に取り組まれた方は、やはり、同Xを続けながら、如何にして王手7回の条件をクリアするかに悩まれたことでしょうか。そして、道標条件がヒントになっているので、幾分易しく感じていただければと思います。

橋本孝治

確かに桂が頑張っている詰上り。角をなるべく盤上に残して王手回数を稼ぐ中盤の手順も面白いと思います。私自身は「同X問題」には多少の心得がありましたし、16手目の指定で序盤の手が決まるので実際に解き始めると難しくは感じませんでした。問題文を見て条件の多さに尻込みする人は多かったでしょうね。

香箱

- ① 後手同xは23回なので先手は4枚駒を取らないといけない。
- 角と33、13、93の歩3枚。これをとっかかりにして進める。
- ② 王手を7回もこなさないといけない。
- 空き王手で実現可能。
- ③ 詰上がりはこれだと閃いたので決め打ち。
- 収束のために47歩は温存しなければ。ゆえに23手目は98飛。

以上でパズルのピースが出揃った。小気味よく個々のピースの並び順が決まっていき、美しい収束。美味しく頂きました。

雲海

条件から詰上がりはこれしかなく、大体の手順もすぐわかったのですが、王手が計7回と

いう条件が鬼門でした。最初はどうしても5回しか出来ず悩まされました。後手の角を68で取るのではなく、77において飛とのバッテリーにより開き王手で王手の回数を稼ぐのが非常に巧いです。ところで桂は名脇役で一番がんばったのは飛でしょうね・・・

たけとひで

3七桂不成を参考に7七桂不成のメカニズムを推理。すると最終図は判明したものの、王手7回はなかなか難しい。捨合の連続で開き王手にするしかない。そこで6八銀・3八銀か。これは面白い。素晴らしい。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

再出題

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

第3番の神無七郎作は作者以外の正解者が誰もいませんでした。このまま解答発表するにもったいない作品ですので今月号で再出題することにしました。

第3番 神無七郎作

キルケ協力自玉詰 90手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二									歩	
三							と	歩		
四							歩			
五										
六						香	王	歩		
七							科			
八						香				
九						香	王			

持駒 桂2

キルケ - 駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に駒が戻される。戻せないときは相手の持駒になる。

ヒントとして作者のコメントを載せておきます。

作者

小駒2枚が交互に復活して、受方の駒を何度も操作する手順。成駒ができると非限定を生じ易いので、なかなか上手く行かなかったのですが、桂を主体にすることできれいに纏まりました。今回の課題のおかげですね。

★解答はこちらまで takuji@dokidoki.ne.jp

# 妖精賞の系譜 (15)

## 第 19 回 妖精賞 (2006年)

この期も、担当者の片岩氏の選考によって妖精賞が決定しました。

### 【短編部門】

詰将棋パラダイス 2006 年 8 月号

金子清志 作

ばか自殺詰 12 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
	王						王	将	五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

35 飛 45 角 同飛 74 玉 38 角 47 飛  
44 飛 85 玉 49 角 58 角 45 飛 同飛成  
まで 12 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
	王			将			王	将	五
									六
									七
				馬					八
					角				九

持駒 なし

片岩裕貴 (妖精賞発表時コメント)

短編部門の金子作は、定番の両王手を簡素な初形で表現した作品で、究極の形ともいえるでしょう。金子氏はフェアリーでの発表作はあまり多くないですが、常に狙いを持った完成度の高い作品を見せてくれます。

作者

普通詰将棋でよくある詰上りから逆算で作

り、最初の 4 手はその後に付け加えました。15 銀配置から詰上り想定が当たれば早く解けると思いますが、そうでないと難しいと思

解説 (片岩裕貴)

鮮やかな両王手で詰める作品です。この詰上りは、おそらく作図を志す者みんなが作ってみたい形の一つだと思いますが、実にきれいな形で実現させました。作者の言葉にあるように、

15 銀の配置がヒントと言えばヒントですが、双裸玉に近いきれいな配置なので、ヒントであることに気付きにくいかもしれません。

市村道生

平凡な終形では 2 手超過。両王手の形を発見して、一挙に解決。

浜崎歩

「これぞばか自殺」という感じの緊張感あふれる手順。この初形にまでもってきた作者の手腕に拍手。

弘光弘

どうやって 14 への逃げを封じることが解決のカギだった。

★ 15 銀配置で両王手を見破れるかどうかだが、慣れた人なら難しい道りではないだろう。ただ最終手を 24 金と読んだ方はどうしても 14 手掛かる為、かなり悩む事になる。詰上りの想定が運命を分ける。両王手に必要な飛と角の二枚をベストポジションで発生させる手順は解後感抜群といえよう。

【中編部門】

詰将棋パラダイス 2006 年 10 月号

小湊奈美子 作

安南打歩詰 33 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			歩						五
		桂	王						六
									七
									八
王	馬		龍						九
桂	桂								

持駒 歩17

- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 同角生 88 歩 同角生
- 77 歩 まで 33 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			歩						五
		桂	王						六
			歩						七
									八
王	馬		龍						九
桂	桂								

持駒 なし

片岩裕貴（妖精賞発表時コメント）

中編部門は作品の絶対量が少なく、該当作なしも考えましたが、エンターテインメント性の高

さで小湊作を推します。ルールさえ理解できれば誰にでも解ける作品ですが、このような遊び心あふれた作品はフェアリー詰将棋の目指す一つの方向だと思います。

解説（片岩裕貴）

77 歩と 88 歩を繰り返すだけでおしまいというものですが、なぜ最後の 77 歩を取れないのかを解説します。

この歩を同角と取ると 68 飛で開き王手になるのですが、持駒が尽きてしまったので、合駒ができずに攻方玉は詰みの状態になります。しかし、打歩詰ルールでは打歩詰以外の詰みを禁手としているので、受方としてはこの手を指すことができません。よって、77 歩の時点で打歩詰が成立するというロジックです。また、途中で、77 同角成とするのは 88 歩の王手を防ぐ手がなくなってしまうので、角生が必然となります。そしてこの作品には大きな狙いがあり、手順を後からたどっても同じ手順になるという「回文詰」だったのです。アイデア一発のようなものですが、こういうのを思いつくるのもセンスのうちだと思います。変化紛れは皆無に近いですが、この手の作品にそういうものを求めるのは野暮というものでしょう。

名越健将

最長回文詰？考えることが違う。

八尋久晴

玉方も先手玉を打歩以外で詰めてはいけないということを利用したわけですね。

浜崎歩

回文詰というよりも、賞状でよくある「以下同文」詰という感じ。アイデア賞ですね。

- ★ ふふふ言う事なしですね。このセンスが素晴らしい。対抗馬が少なかったとは言え、思わず笑ってしまうこの回文詰に妖精賞を与えてしまう担当者にも拍手です。



【長編部門】

詰将棋パラダイス 2006年6月号

森 茂 作 ばか詰 1965 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金	銀			皇	一
				銀	歩	角	歩		二
			桂		桂		桂		三
駒	駒	歩		歩	歩			龍	四
		歩	歩	皇	王				五
	歩	歩	歩	歩	歩			王	六
	歩	歩	歩			歩		皇	七
	歩	歩	歩	歩	歩	皇		龍	八
					香				九

持駒 歩

\* 詰手順は神無一族の氾濫解説稿より。

15 龍 34 玉 14 龍 35 玉 36 歩 同と寄  
 15 龍 34 玉 14 龍 45 玉 48 香 47 と寄  
 同香 46 と 15 龍 34 玉 14 龍 35 玉  
 36 歩 45 玉 15 龍 35 歩 46 香 34 玉  
 35 歩 33 玉 34 歩 42 玉 33 歩成 同玉  
 34 歩 同玉 14 龍 35 玉 36 歩 46 玉  
 (途中図1 36 手目)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金	銀			皇	一
				銀		角	歩		二
			桂		桂	歩	桂		三
駒	駒	歩		歩	歩			龍	四
		歩	歩	皇					五
	歩	歩	歩	歩	王	歩		王	六
	歩	歩	歩					皇	七
	歩	歩	歩	歩		皇		龍	八
									九

持駒 歩

ここから歩を香に変換し、香を歩2枚に変換することによって、歩を1枚増やす「A」手順を2回行います。

「47 歩 45 玉 15 龍 35 香 46 歩 34 玉  
 35 歩 33 玉 34 歩 42 玉 33 歩成 同玉  
 37 香 36 歩 同香 35 歩 同香 34 歩  
 同香 同玉 14 龍 35 玉 36 歩 46 玉」  
 (=「A」) A  
 次に歩を香に変換する「B」手順を行います。

「47 歩 45 玉 15 龍 35 香 46 歩 34 玉  
 35 歩 33 玉 34 歩 同玉 14 龍 35 玉  
 36 歩 46 玉」 (=「B」)

ここから8段目のと金をはがします。以後、1枚と金をはがしては、右辺に戻って持駒を補充するパターンを繰り返します。

① 49 香 48 と 47 歩 同と 同香 同玉 48 歩 46 玉 A×3 B 47 歩 57 玉 59 香 58 と 同香 同玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉

78、88の2枚のと金をはがすときには、その右側の歩を必要なだけ下げておく事前準備が必要になります。これは「寿限無」と似た構造ですが、状況に応じ歩の下げ方は変化します。

A×3 47 歩 57 玉 58 歩 67 玉 68 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×3 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×3 B 47 歩 57 玉 58 歩 67 玉  
 68 香 同と 同歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×4 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 77 玉 78 歩 67 玉 68 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×4 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 78 玉 79 歩 67 玉 68 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×4 B 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 77 玉 78 香 同と 同歩 67 玉 68 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 (途中図2 806 手目)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金	銀			皇	一
				銀		角	歩		二
			桂		桂	歩	桂		三
駒	駒	歩		歩	歩			龍	四
		歩	歩	皇					五
	歩	歩	歩	歩	王	歩		王	六
	歩							皇	七
		歩	歩		歩	皇		龍	八
				歩					九

持駒 歩

8段目のと金をすべてはがした後、5、6段目の駒をはがしていきます。はがす順番は86と

→ 75 と→ 76 歩→ 65 金です。

A×5 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 78 玉  
 79 歩 87 玉 88 歩 77 玉 78 歩 67 玉 68 歩  
 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×5 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 78 玉  
 79 歩 88 玉 89 歩 77 玉 78 歩 67 玉 68 歩  
 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×5 B 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉  
 69 歩 78 玉 79 歩 87 玉 88 歩 96 玉  
 99 香 98 歩 同香 97 と 同香 同玉  
 98 歩 86 玉 87 歩 77 玉 78 歩 67 玉  
 68 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×5 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 78 玉  
 79 歩 87 玉 88 歩 77 玉 78 歩 67 玉 68 歩  
 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×5 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 78 玉  
 79 歩 88 玉 89 歩 77 玉 78 歩 67 玉 68 歩  
 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×5 B 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉  
 69 歩 78 玉 79 歩 87 玉 88 歩 96 玉  
 97 歩 85 玉 87 香 86 と 同香 同玉  
 87 歩 77 玉 78 歩 67 玉 68 歩 58 玉  
 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×6 B 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉  
 69 歩 78 玉 79 香 87 玉 88 歩 86 玉  
 87 歩 75 玉 76 香 同玉 77 歩 67 玉  
 68 歩 58 玉 59 歩 47 玉 48 歩 46 玉  
 A×3 47 歩 45 玉 15 龍 35 香 46 歩 34 玉  
 35 歩 33 玉 34 歩 同玉 14 龍 35 玉  
 ② 15 龍 46 玉 47 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69  
 歩 77 玉 78 歩 76 玉 77 歩 75 玉 76 香 同  
 金 同歩 85 玉 86 金 迄 1965 手

詰上図

					金	銀			皇	一
					銀	歩	角	歩		二
			桂		桂		桂			三
將	將	馬		馬	歩					四
	王			皇					龍	五
	金	歩	馬	歩					王	六
歩	歩				歩				角	七
					歩	皇			龍	八
			歩							九

持駒 なし

### 片岩裕貴（妖精賞発表時コメント）

長編部門の森作はすっきりした論理で構築された超長編で、森氏の持ち味が存分に発揮された傑作です。本作の発表号の翌号に森氏の訃報が掲載されていますが、氏のようなオールラウンドの創作・解図力と詰将棋に対するメンタリティを持ち合わせた人は今後なかなか現れないのではないのでしょうか。改めてご冥福をお祈りします。

### 作者

龍の助けを借り歩二枚消去して香を入手、その香を歩三枚に変えることにより、24 手サイクルで持駒歩の増幅を行う。最終回以外は最大限香歩を持駒にしてから「と金」のはがし、または最大限歩を持駒にしてから歩の一段下げを行う。

### 解説（神無七郎）

「龍の顎」では桂を媒介とした持駒増幅で、巨大かつ精密な高度なパズルを見せてくれた森氏。本作でも香を媒介とした持駒増幅に「はがし」を組み合わせ、ばか詰の醍醐味を味わえる手順を堪能させてくれます。

従来、香を利用した持駒増幅は、香で香合いを稼ぐ方式だったため、非限定がつきものでした。本局では龍で香合いを稼ぐ2段階式の変換を用いているため、非限定が消えています。

さらに、持駒に香があることにより、歩の操作だけでなく、「はがし」という要素を加えることが可能になっています。香や桂を伴った持駒増幅は、かなりの発展性を秘めており、今後の研究が期待される分野です。

手数が手数なので解く前に怯んだ方も多かったと思いますが、解いてみると意外と易しかったと思います。ただし、大きな落とし穴が二箇所あります。一つは① 99 手目の 49 香。ここを先に 47 歩としてしまうと、2 手長くなってしまいます。もう一つは② 1949 手目の 15 龍。もう右辺に戻る必要がない最終盤なので、この手でい歩を節約できるのです。これらの紛れは自然にできた陥穽ですが、超長編だけに、これに落ちてしまうと正解を捜すのは大変です。

創る立場から見て、特に感心するのは終盤の 5・6 段目のはがしです。ここへは、使える歩の枚数が増えるため、非限定を生じさせずに、4 枚もの駒をはがすのは至難の技です。作者は

「fmに大いに援けられました」と仰っていますが、積み重ねられた経験と、確かな技量があるからこそ、これが実現できたのだと思います。

作者自身も「会心作」と自負するこの作品は、森氏の傑作群の中でも、代表作の一つに位置づけられることでしょう。

#### 駒井信久

意外とスッキリした構造で解きやすかった。何度も資金を稼いでは埋蔵金を掘りに行く。そしてついに・・・そんなストーリーが見えて楽しい。

#### 小峰耕希

手数割りに難所無し。歩の枚数が実に良く管理されている。

#### 市村道生

香と歩が盤面で躍動。堂々とした構成に妙技も混在する。名作。

★ 私も解図時に二ヶ所のポイントで苦しんだ覚えがあります。その悩んだ時間が多ければ多いほど解けたときの喜びは大きくなりました。氏の作品には本当にこのような作品が多かった。森氏の作品がもう解けないということは本当に残念なことです。

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

11 月 7 日 (土)

**Onsite Fairy Mate 164 回出題**  
**\*Messigny 協力白玉詰 1 題**

11 月 15 日 (月)

**Fairy of the Forest #25**  
**\*協力詰 4 題**

11 月 15 日 (月)

**第27回WFPフェアリー作品展**

11 月 15 日 (月)

**第9回詰四会フェアリー作品展3番**

## 作品募集締切一覧

ギネスに挑戦！持駒最多のばか詰

【条件】持駒が 20 枚以上のばか詰。手順は完全限定で使用駒数は通常のもの。双玉は OK。

【投稿締切】

2010 年 11 月 15 日 (月)

\*\*\*\*\*

紅月さんが多忙な為、今現在先月出題の結果稿がまだ届いておりません。よってとりあえず暫定版として発行することとし、結果稿が届き次第、正規版として発行する予定です。楽しみにされている方には本当に申し訳ないのですが御了承下さい。

今週一杯は自宅から離れていらっしゃるようですので次の日曜日から月曜日頃になると思います。

レイアウトの見苦しいところもありますが、正規版にて調整する予定です。そここのところもよろしく願いいたします。

たくぼん

2010 年 第 28 号

### Web Fairy Paradise

非売品  
平成二十二年十月号  
平成二十二年十月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市  
発行兼編集人 須川卓二  
発行所 Web Fairy Paradise 編集部  
問合先  
須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp